

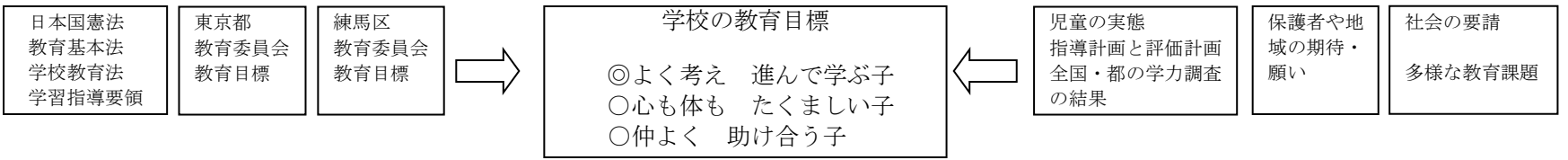
南田中小学校授業改善推進プラン

学校番号 62

平成28年度

練馬区立南田中小学校

学力向上を図るための全体計画



学校経営方針（学力向上に関わる要点）

- 「分かる・できる授業」による基礎基本の定着（全教科における言語活動を大切に作る。）
- アクティブ・ラーニングを取り入れた授業改善
 - ・問題解決的な学習を基に、自ら課題を発見し解決しようとする態度を育成する。
 - ・児童の学習への意欲や思考力や判断力、表現力を育成するため、計画的な指導を行う。
- 読書の習慣化と読書活動の充実（区立南田中図書館を利用し、活字に親しむ学校づくりに努める。）
- 個に応じた指導の工夫（全学年で算数少数人数習熟度別授業を実施する）
- 幼保小連携教育・小中一貫教育の推進（学びの連続性に向け、カリキュラムや指導法を改善しながら、円滑な接続を図る）

各教科の指導の重点

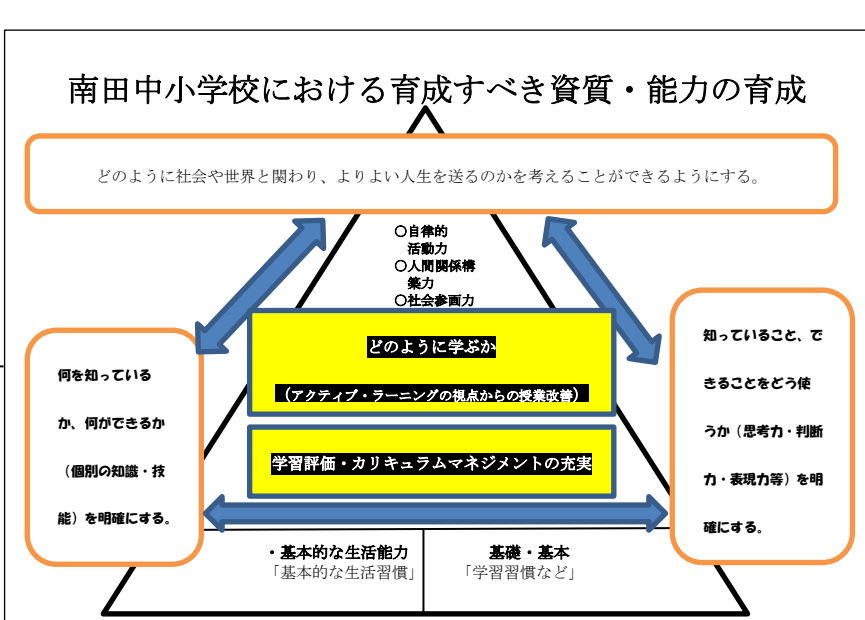
- ・基礎的・基本的な内容の習得・反復
- ・習熟度別指導の推進、ベーシック・ドリル診断シートの活用
- ・課題発見と課題設定の工夫
- ・意欲を引き出す過程の重視
- ・互いに認め合い、学び合う場の設定
- ・多面的に物事を考える場や自分の考えを発表する場の設定
- ・体験的な学習や問題解決的な学習の推進
- ・補充的・発展的な指導の充実
- ・よさや可能性を伸ばす評価の工夫

総合的な学習の時間の指導の重点

- ・実社会や実生活との関わりを重視した探究的な活動の推進
- ・自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考える活動の展開
- ・学び方やものの考え方を身に付ける活動の推進
- ・各教科等との関連による深化

外国語活動における指導の重点

- ・言語や文化に対する理解を深め積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成
- ・学ぶ意欲や意義を高め、外国語に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の向上



【学力向上を図るための基本方針】

- 「自分の思いや考えをもち、表現できる子」の校内研究主題と、「基礎学力の定着」「相手に分かりやすく説明すること」「多様な考えを出すこと」を重視し、学習者の主体的・対話的で深い学びを促す授業改善に努める。また、各教科・領域にて言語活動をより充実させ、思考力・判断力・表現力等を始めた資質能力の育成を図る。
- 区立南田中図書館を活用する計画を見直し、並行読書等の推進、読書の質や読書量を向上させるなど、読書習慣および読書活動の充実を図る。
- 小中一貫教育では、国語科課題改善カリキュラムを検証する。また、算数・数学および理科の課題改善カリキュラムでは、現状以外の領域に着目して研究をする。今年度は、教科部会ごとに小中9年間を見通した系統的な指導を意識した授業改善を図る。
- 「みんなでみんなをそだてる」を合言葉に、家庭や関係機関との行動連携を図り、基礎生活能力を培うなど社会力の向上を図る。

道徳教育の指導の重点

- ・人権を尊重する態度の育成
- ・考えを議論する道徳の転換
- ・多面的・多角的に考える問題意識をもって話し合う学習の推進
- ・自己の生き方や他者との関わりについて考えを深め、道徳的判断力、道徳的心情や道徳実践意欲と態度の育成
- ・各教科との関連性を明確にした指導計画に基づいた補充・深化・統合

特別活動の指導の重点

- ・心身の調和のとれた発達と個性の伸長
- ・集団の一員としての自覚と望ましい人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度の育成（特別支援学級との交流を含む）
- ・活動目標を皆でつくり、その達成方法を話し合っ役割分担するなど自己を生かす能力や合意形成能力の育成

生活指導における指導の重点

- ・基本的な生活習慣の定着
- ・学校いじめ対策基本方針に基づくいじめの未然防止・丁寧な対応
- ・教育相談の充実
- ・安全教育の充実
- ・SNS南田中ルールの活用・更新

キャリア教育における指導の重点

- ・自己および他者に積極的に関わろうとする子供の育成
- ・夢や希望、憧れる自己イメージを描き、努力する態度の育成
- ・勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の育成

本校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none">・体験的・問題解決的な学習を重視し、児童の学ぶ意欲を引き出し、確かな学力の向上に努める。・アクティブ・ラーニングの視点から授業改善に努める。そのために、児童の学習意欲を高めるための課題設定、児童のつまずき等を想定した児童理解を基にした課題の選定を重視する。・算数では、東京方式習熟度別指導ガイドラインに基づき、個に応じた指導を工夫する。第3学年以上は、3展開4グループによる少数で習熟度別指導を行う。・夏休み教室や放課後学習などで補充的な学習を充実させ、基礎的・基本的な内容の習得と反復を行う。・実物投影機やプロジェクターなどのICT機器を活用した授業改善に努める。・授業におけるユニバーサルデザインを意識し個に応じた指導を行う。・本年度開設した特別支援教室「ふたばルーム」と校内委員会とが連携し、児童の個別指導計画等を基に指導を行う。	<ul style="list-style-type: none">・みなみん学級と通常の学級との「交流及び共同学習」を計画的に行い、障害理解の啓発を図る。・学校図書館の活用、区立南田中図書館の連携を通して、読書活動の充実、読書習慣の形成、情報活用能力の育成を図る。・食育を推進するため食文化や食料事情について理解を深める。・体力調査結果および体力向上推進プランを活用して、日常の体育授業の改善と、体力ぐんぐんアップの取組の充実を図る。・オリンピック・パラリンピックの精神、スポーツ、伝統文化、環境について、「知る・体験する・交流する、支える」ことができる学習を設定する。・学校や児童の実態に応じた授業時数を配当する。	<ul style="list-style-type: none">・「基礎学力の定着」「相手に分かりやすく説明すること」「多様な考えを出すこと」を重視し、児童が学び合う場面を意識した授業づくりに取組み、指導力向上に努める。・授業観察を教員相互で行うことで、互いに授業力を向上できる雰囲気づくりに努める。授業後に、授業内容について自然な環境で話し合えるように心掛ける。・区立南田中図書館を利用し、読書の質や量を向上させた授業づくりに努める。・日常的に授業を公開するとともに、教員相互の授業参観を実施する。・生活指導および人権教育に関する研修会、ICT活用研修会、各校務分掌担当者による伝達研修、OJTを意識した主任教諭連絡会にて研修内容を企画した若手研修会、外国の生活や文化について教員が理解を深める外国語活動指導研修会を行い、児童の特性等や教育的ニーズを把握するとともに自らの指導を振り返る機会を設ける。・学校運営力・組織での対応力、教員としての資質の向上を図るため、各主任が若手教員に対して、組織における校務分掌の推進のさせ方について講話できる場を設ける。・小中一貫教育を推進させ、教科ごとに小学校中学校で児童の学びの連続性を踏まえた授業をともに作り、見合うことで授業改善を図る。	<ul style="list-style-type: none">・評価カードを導入し、教育活動をPDCAサイクルで常に評価・点検し、改善策を検討する。・各教科・領域の指導計画および評価計画の見直しを図り、適正かつ信頼ある評価につなげていく。・児童一人一人に対して肯定的な評価、自己の成長を実感させる評価となるよう努める。・診断的評価と形成的評価、振り返りを重視して、児童のその時間の学びを捉え、次時の学習に生かせるようにする。・学校公開などを通した保護者によるアンケートを分析し、次回の取組に反映できるようにする。・学校評議員や保護者・児童による学校関係者評価を分析し、課題を明らかにする。学校評価を次年度の教育活動に反映させ、指導の充実を図るとともに、その結果や成果を保護者・地域に学校だよりやHP等で発信する。・全教員による自己評価の結果を基に改善を重ね共通理解を図る。	<ul style="list-style-type: none">・年間7回の土曜授業を通して、授業公開を行い、保護者がいつでも参観できるような雰囲気づくりに努める。・道徳授業地区公開講座の内容を工夫し、保護者や地域の方々と子供が目標に向かって努力する態度の育成に関する共通指標をもてる機会とする。・校内では、周年委員会事務局および周年行事委員会を設置し、50周年行事に向けた内容や方法等について検討する。地域住民等で組織される周年行事実行委員会と連携を図って取り組んでいく。・地域行事に積極的に参加する。・アスリートやそれを支える人々、伝統芸能などその道を極めた人材、学校の教育活動を支える地域の人材と連携・協働した教育活動を推進する体制づくりを進め、教育課程の中で効果的に行えるようしていく。・生活科を中心とした幼保小スタートカリキュラムの作成をし、交流活動などを通して、互恵性のある連携が実現できるような努める。・課題改善カリキュラムの検証と授業を通した小中一貫教育の推進を図る。・学力調査結果と連動した東京ベーシック・ドリルを活用し、家庭と連携した学習習慣を確立させる。

